文化財通信くまもと

第５号
1992.3
熊本県教育委員会

熊本県立装飾古墳館オープン特集

建設中の熊本県立装飾古墳館

熊本県では、文化庁の「風土記の丘」の一つとして、菊池川流域の山鹿市・鹿央町・菊水町の３地区を指定し、それぞれの地区内で史跡の整備を進めてきました。平成３年（1991）には３地区を総称して「肥後古代の森」という名称が決定しました。そして、その中核施設として、鹿央町に「熊本県立装飾古墳館」を建設し、平成４年４月15日に開館します。

郷土熊本には、歴史的な多くの遺跡・遺物が残されています。中でも装飾古墳は全国の本場です。装飾古墳館では、それらの遺跡・遺物を通して歴史に対して深い理解と興味を持っていただきたいと考えています。そこで、遺物・遺構を「見る」のに加えて、最先端の映像技術を導入して、歴史をよりいきいきとしたものに感じられるようにしました。展示もわかりやすく、親しみがあるようにと心がけています。

また、特別展・企画展を定期的に行い、同時に多くの皆さんが参加できるような体験学習会・講演会などを企画しています。広く社会に開かれた学習の場・憩いの場としての役割を果たしていくつもりです。多くの皆様の来館をお待ちしております。

装飾古墳室

装飾古墳は貴重なものですから、現在自由に見ることができません。そこで、この部屋では県下の装飾古墳の主なもの（井寺古墳・小田良古墳・千金甲古墳・チブサン古墳・大坊古墳・弁慶ヶ穴古墳・永安寺東古墳など）をレプリカで再現しています。

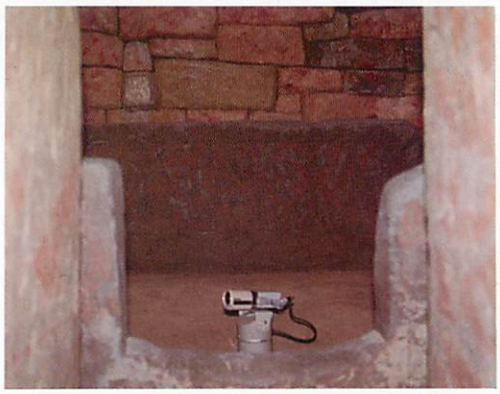
〈井寺古墳レプリカ〉

上益城郡嘉島町にある井寺古墳のレプリカです。石室の真ん中にモニターカメラを据えつけて、外から自由にコントロールして、見たい所を拡大して見ることができます。

〈マジックビジョン〉

スイッチを押して、ガラスの奥をのぞきこむと、そこには不思議な世界が広がります。子どもたちが古墳を探険して、不思議な体験をする、マジックビジョンによる「ぼくらの古墳探険記」は常時上映しています。

鍋田横穴レプリカ（装飾古墳室入口）



井寺古墳レプリカ

永安寺東古墳レプリカ

〈装飾古墳検索システム〉

展示している装飾古墳や、日本全国および朝鮮半島、中国の装飾古墳に関するいろいろな情報を、簡単なボタン操作で、コンピューターからモニター画面に映しだして調べることができます。

体験学習室

実際に体験することをとおして、いにしえの技術の巧みさや苦労を知り、古代の人々の心にふれることができます。

予定している企画は、「土器づくり」や「古代の食事づくり」などです。

喫　茶　室

地階の屋外展示場を眺めながら、ゆったりとしたくつろぎのひとときを楽しめます。

常設展示室

菊池川流域を中心に、原始・古代の遺跡とそこから出土した遺物を展示しています。それらをとおして当時の人々の生活を知ることができます。

写真の立体模型は、菊池川流域の主な遺跡が、ボタンを押すと時代ごとに点滅するようになっています。

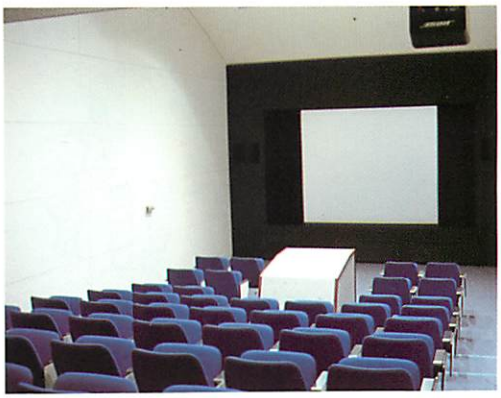
菊池川流域主要遺跡分布模型

企画展示室

テーマを決めて、企画展や特別展などを行います。開館記念の企画展は『よみがえる古代「装飾古墳の世界展」』です。ご期待ください。

イマジネーションホール

立体映像やハイビジョン方式による映像などを上映しています。最先端のシステムを使った映像によって、歴史をより身近なものに感じることができるでしょう。



イマジネーションホール

ここで、上映予定のプログラムを紹介しておきましょう。

〈火の国の古代人たち〉

熊本県出身の常田富士男さんがガイド役になって、熊本の古代遺跡を紹介します。

〈装飾古墳〉

平成２年に調査された菊水町の塚坊主古墳の様子をおりまぜながら、熊本県内の装飾古墳を、文様の移り変りを中心に紹介しています。

屋外展示場

〈再現！縄文人の食生活〉

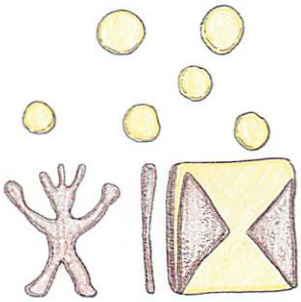
縄文時代の食生活をクッキーづくりや釣り針づくりなどの実験で再現しました。立体映像の迫力は素晴らしいものです。

屋外展示場

広い円形の空間は、前方後円墳の後円部をイメージしたものです。この中には、近くで出土したいろいろな石棺の実物やレプリカを置いています。

肥後古代の森 イラストマップ

菊池川流域の文化財



チブサン古墳の中に円・三角形・人などが赤・青・白できれいに描かれています。

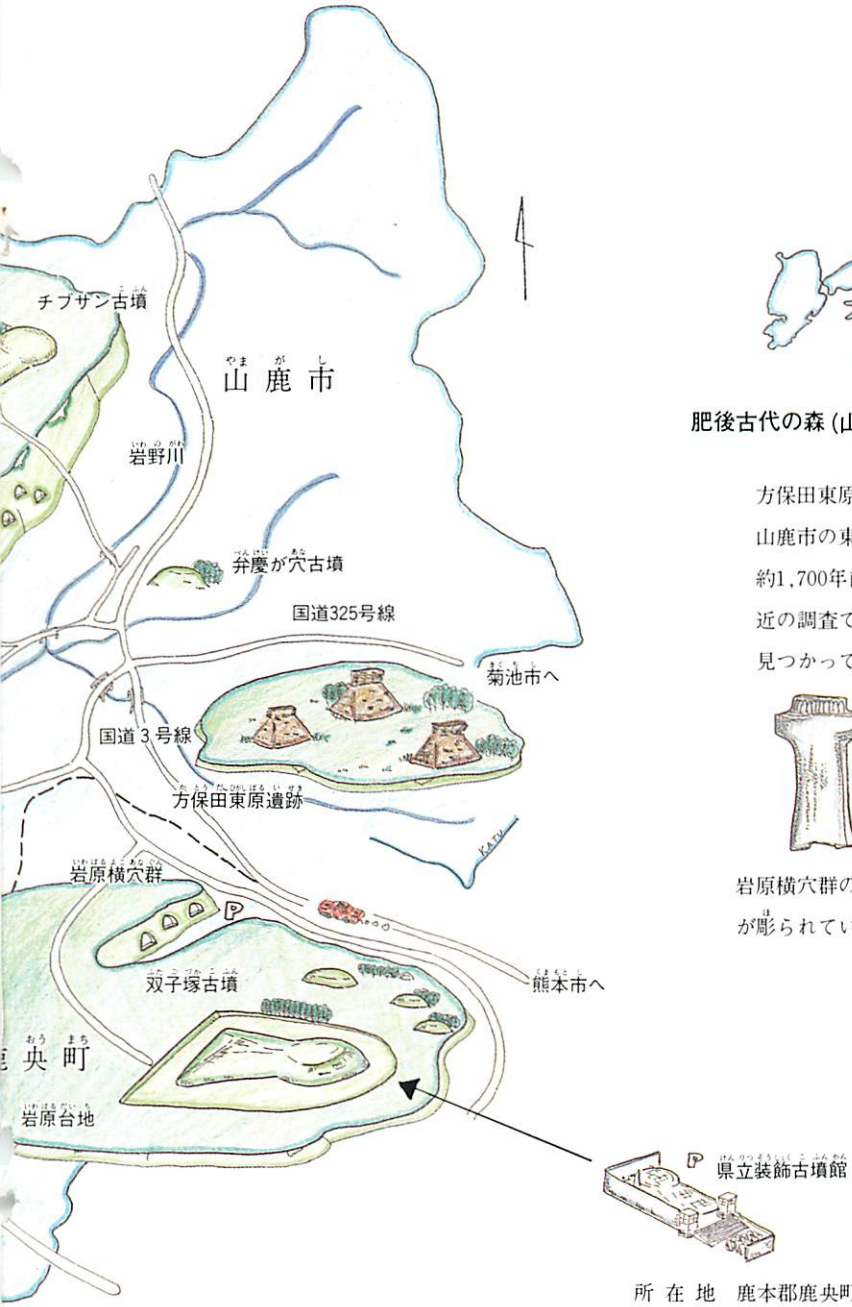
がけに人・弓・盾などが彫られています。（鍋田横穴群）

若園貝塚

この貝塚は、江田川が菊池川に合流するところにあり、今から約4,000年～5,000年前にできたものです。

冠

船山古墳から見つかった物は、他に鏡や鉄刀・沓（儀式や宝物として作られたくつ）などがあります。



肥後古代の森（山鹿市・鹿央町・菊水町）の位置

方保田東原遺跡

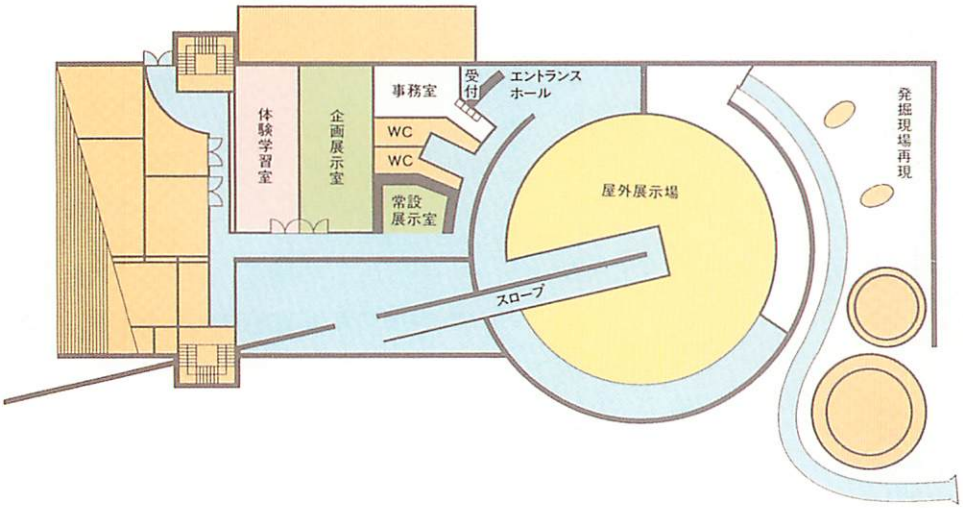
山鹿市の東側にあるこの遺跡は、今から約1,700年前～1,400年前のものです。最近の調査で、家の跡が32軒、お墓が18基見つかっています。

岩原横穴群の岩にも矢の入れ物（靫）などが彫られています。

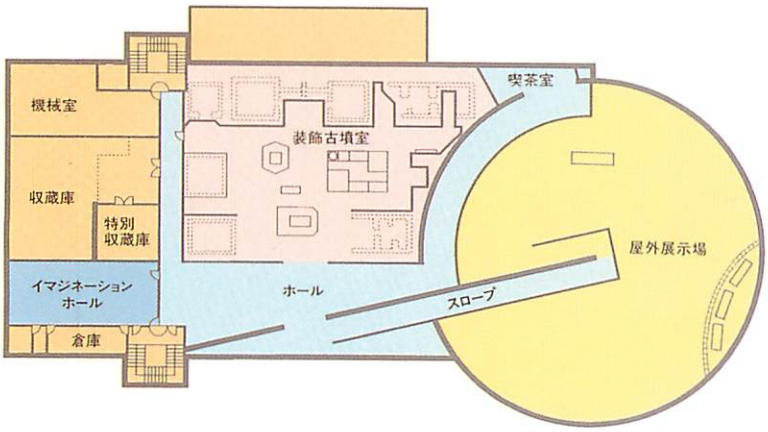
所 在 地　鹿本郡鹿央町大字岩原3085番地
TEL0968-36-2151・FAX0968-36-2120
開館時間　午前9:30～午後5:00（入館時間は4:30まで）
休 館 日　毎週月曜日（当日が祝日の場合は翌日）
年末・年始（12月25日～1月4日まで）

装飾古墳館のご案内

1階平面図



地階平面図



■建築面積　1,448.83㎡　■構　　造　鉄骨鉄筋コンクリート
■延床面積　2,098.98㎡　■規　　模　地上1階／地下1階
■設　　計　安藤忠雄　■総事業費　1,680,568,000円

新指定文化財情報

遺跡全景

製錬炉と炭窯

平成３年４月から平成４年３月の間に、次の２件が県指定史跡として指定（１件は群の追加指定）されました。この結果、県指定文化財の総数は 342件、うち県指定史跡は79件となりました。

大藤１号谷遺跡

県の北部に位置する小岱山の中腹から山麓にかけて、約30ヵ所の製鉄遺跡が分布しており、九州では最大の製鉄遺跡群として知られています。この中の古城谷、麻畑遺跡が、昭和34年12月８日付けで県指定を受けていましたが、平成３年８月21日付けで大藤１号谷遺跡が追加指定となりました。

大藤１号谷遺跡は、荒尾市金山字大藤2040番地に所在します。

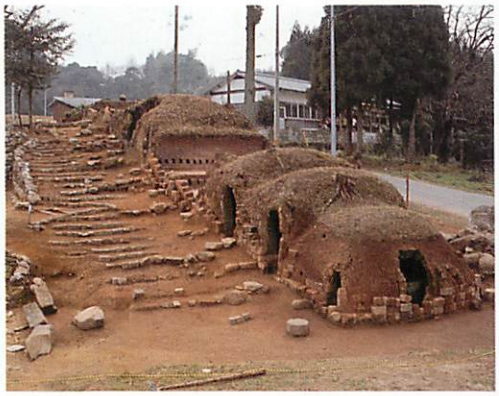
ゴルフ場造成に伴い、平成元年から平成２年に荒尾市教育委員会によって発掘調査が行われました。調査の結果、約500㎡の範囲から製錬炉１基、炭窯９基、廃滓場等が発見されました。

製錬炉は、全長約90cm、炉床の長さ87cm、幅32～37cm、炉壁の高さは残存部で約23cmありました。炉の構造は、半地下式竪型炉で、本体の前方に「ハ」字状の前庭部（作業面）を持ち、炉床は緩やかに傾斜（約12度）しています。廃滓場は、炉の下方の斜面に広がり、鉄滓、炉壁、羽口、土器等が出土しています。

炭窯は、直径 130～ 235cmの円形で、最も深いもので69cm。焚口や煙道は確認されていません。出土した土器は須恵器、土師器、瓦質土器などですが、遺跡の性格上、数は多くありません。しかし、須恵器の年代は９世紀と考えられ、小岱山周辺においては最も古い製鉄遺跡です。

遺跡の重要性から、事業者の協力により遺跡が保存されることになり、県指定史跡に追加指定されました。

小代焼・瓶焼窯跡



小代焼・瀬上窯跡

整備後の瀬上窯跡

小代焼窯跡群（瓶焼窯跡・瀬上窯跡）

小代焼は竜原焼、松風焼等とも呼ばれ、八代焼とともに肥後を代表する近世陶器です。

寛永９年（1632）、細川忠利公の肥後入国に伴い、この地に移り住んだ陶工源七（葛城）、八左衛門（牝小路）によって始められたとされています。

小岱山の北麓にあたる南関町宮尾には、３箇所に小代焼の窯跡がありますが、石原窯は破壊が著しく、詳細は不明です。

瓶焼窯は、宮尾字東山田529に位置し、現存するのは明和６年（1768）に改築された窯と考えられ、初期の窯跡はその下に埋没しています。胴木間を含めて６室の連房式登窯で、自然の傾斜を利用して築かれています。

瀬上窯は、天保６年（1836）、藩の指令によって瀬上林右衛門によって築かれ、何度かの改築を経て大正時代まで使用されていました。現存する窯は、胴木間を含めて９連房の登窯で、窯に向かって左手に工房の跡がよく残っています。工房には、送水管、水槽、水簸槽、ロクロ跡、釉薬槽、建物跡などがあり、粘土作りから整形までの一連の工程がよく分かります。

平成元年度に南関町教育委員会によって調査され、「古小代の里」として整備されています。平成３年11月15日指定。

〈編 集 後 記〉

今回の第５号は、４月15日にオープンする県立装飾古墳館を特集しました。

開館をまじかに控え、装飾古墳館のスタッフは大忙し。そんななか無理を承知で原稿や写真を提供していただきました。熊本県は装飾古墳の宝庫、その素晴らしい展示物をぜひご覧になり、古代のロマンに充分ひたってください。

第　５　号
平成４年３月31日発行
発行　熊本県教育庁文化課
熊本市水前寺６丁目18-1
電話 096－383－1111番
印刷　株式会社　ハ　タ　ノ

03	教委　教文
③	００３－２